

科目名		産業精神保健学実習	
科目責任者	江口 尚	(産業精神保健学 教授)	
担当者	井上 彰臣	(IR推進センター 准教授)	
担当者	真船 浩介	(産業精神保健学 講師)	
開講時期:	2年次	単位数:	4 単位
		時間数:	90分× 60 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>自らの研究テーマへの取り組みを通じ、産業精神保健の目的、諸概念、活動の現状や広がり、課題への理解を深める。産業保健スタッフチームのリーダーとして、科学的根拠と現場の顕在的・潜在的ニーズ及び新型コロナウイルス感染症のパンデミックの影響、対応を踏まえた高水準の精神保健活動を計画し、実践するためのリサーチマインド、プレゼンテーション能力等を修得する。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 広範な産業精神保健領域の中で、自らが取り組む課題を絞り込むことができる。</li> <li>2) 自らの研究課題に関連した論文をレビューし、それらの知見、課題をまとめることができる。</li> <li>3) 産業精神保健領域の研究デザインにつき、一般的な議論をすることができる。</li> <li>4) 自らの研究課題に関して妥当な仮説を立てることができる。</li> <li>5) 自らの研究課題に適した研究デザインを組むことができる。</li> <li>6) 産業精神保健領域の研究倫理につき、基本的な事項を説明し、議論することができる。</li> <li>7) フィールドとなる職場の関係者に対して、研究の意義、手順等をわかりやすく説明できる。</li> <li>8) 具体的な研究の進め方について議論することができる。</li> <li>9) フィールドとした職場に対する研究結果のフィードバックについて説明することができる。</li> <li>10) 研究過程で生じた問題点につき、正確な把握と適切な対処ができる。</li> <li>11) 得られた結果を多面的に評価できる。</li> <li>12) 研究結果をフィードバックすることで当該職場にもたらされる影響について考察できる。</li> <li>13) 研究結果の討論を通じて、論理的な考え方、リサーチマインドを会得する。</li> <li>14) 学会発表を通じて、結果のまとめ方、プレゼンテーションの仕方を身につける。</li> <li>15) 企業の社会的責任としての産業保健倫理について適切に考察することができる。</li> </ol>			
● 評価方法	実習中の討議への参加度30%、発表内容30%、課題レポート40%で総合評価する。		
● 参考文献	実習のなかで必要に応じ紹介する。		

● 授業内容

内容	担当教員
大学院生が選択したテーマに関して、研究方法(統計手法を含む)や研究倫理などの指導を行うとともに、得られた結果の解釈の仕方、まとめ方についての実践的な指導を行う。	江口 井上 真船
職場の心理社会的環境の領域を中心に、その評価と改善に関する研究指導を行う。	江口 井上 真船
職業性ストレスの領域を中心に、現状の分析および介入方法に関する研究指導を行う。	江口 井上 真船
産業精神保健に関するシステムの領域を中心に、現状の分析および改善方法に関する研究指導を行う。	江口 井上 真船
学会発表を通して、発表のまとめ方を含め、より高度のプレゼンテーションの能力を養成する。	江口 井上 真船